

第1回 南知多町学校建設委員会 会議録

開催日時	令和8年5月27日 午前10時から
開催場所	南知多町役場3階大会議室
出席委員	13名
欠席委員	2名
事務局	2名
傍聴者	3名

■会議内容

1 開会

2 教育長挨拶

【高橋教育長】

委員の皆様には、学校建設検討委員会委員をお引き受けいただき、また本日の第1回会議にご出席いただきましてありがとうございます。令和10年度に予定していた新校舎建設は諸事情により延期となりましたが、このたび計画を進める段階にたどり着き、本委員会を開催する運びとなりました。

委員の皆さんからは、色々なご意見をいただくことになります。先生方には教育環境の観点から、保護者の方々にはお子さんを通わせたい学校像について、地域の方々には地域との結びつきが強く、地域の人たちが普通に学校の中に入って来られるような開かれた学校づくりの視点から、それぞれのお立場でご意見をいただければと思います。

建設地については、豊浜の総合体育館周辺を中心に小学校機能を併せ持った中学校校舎を建設いたします。そして、豊浜小学校は万が一、大災害の発災に備え同地への移設を計画しています。内海・師崎地区の小学校については、保護者・地域の皆さんと意見交換を重ねながら一緒に考えていく予定です。

委員の方からは様々な要望も含めて発言していただきたいと思います。予算の制約はありますが、子どもたちと地域の皆さんにとっていい学校を、総力を挙げてつくってまいります。この会で出た意見や資料はそれぞれの団体にも持ち帰り、広めていただければ幸いです。忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

3 委員会の目的・役割に関する説明（資料1）

- ・資料をもとに事務局が説明した。

4 委員紹介、委員長及び副委員長の選出（資料2）

- ・委員、事務局の自己紹介を実施した。
- ・澤田委員が委員長、鈴川委員が副委員長として互選により選出された。

5 報告事項（資料3～12）

・資料をもとに事務局が説明した。各資料説明の要約は次のとおり。

【資料3】中学校再編実施計画・小学校のあり方（統合）

1 中学校再編実施計画

中学校再編実施計画は今年度改定が行われ、主な変更点は以下の3点である。

① 建設候補地の変更

従来の旧豊浜中学校用地から総合体育館周辺に変更した。立地の優位性、施設用地としての適性、開発整備の実現性、事業費等を総合的に勘案した結果である。

② 開校目標年度の変更

当初の令和10年度から令和15年度へ変更。候補地変更に伴う工程・予算の見直しによるもの。

③ 篠島中学校の統合時期決定

保護者意見交換会・住民説明会・アンケートによる合意形成を経て、令和9年度に統合することが決定した。

2 小学校のあり方（統合）

少子化の急速な進展を受け、昨年度に保護者意見交換会及びアンケート調査を実施した。その結果を踏まえ、今後の方針を以下の2点とした。

（1）将来の小学校統合に備え、中学校新校舎建設に合わせて同一敷地内に小学校普通教室を建設し、特別教室等は小中学校で兼用できる校舎を計画する。

（2）津波浸水の恐れがある豊浜小学校は、令和15年度の新校舎完成時に移設し、児童の安全を確保する。

内海小学校、みさき小学校の統合については、今後も保護者・地域との意見交換会等を継続して実施し、協議を続けていく予定である。

【資料4】 現況把握 施設

町内半島側の小中学校施設の半数が法定耐用年数（47年）を超えている。南知多町中学校の本校舎は建築年数61年で耐用年数を14年超過、内海小学校は53年で6年超過している。なお、長寿命化改修工事を実施することで耐用年数を80年まで延長することが可能。

【資料5】 現況把握 生徒数

中学校生徒数：令和8年度308名が令和15年度には168名へと約45%減少する見込みである。学年別では令和8年度に1年生94名・2年生97名・3年生117名であったものが、令和15年度にはそれぞれ45名・59名・64名まで減少する見通しである。

【資料6】 現況把握 児童数

小学校児童数：令和8年度474名が令和14年度には266名へと約44%減少すると予測される。学校別では、内海小学校が148名から約90名へ、豊浜小学校が95名から62名へ

とそれぞれ減少する見通しである。

【資料 7】 現況把握 建設予定地

新校舎建設予定地である総合体育館周辺の想定敷地面積は約 50,000 m²である。交通利便性が高く、土砂災害特別警戒区域・浸水区域等に該当しないことが確認されている。地質調査の結果、液状化・圧密沈下の懸念がない安定した地盤であることも確認済みである。

法的手続きとして農地転用・都市計画決定が必要であり、愛知県立自然公園条例・南知多町景観条例への対応も求められるが、計画的に進めることで特段の支障は生じない見通しである。

【資料 8】 新校舎建設にかかる考え方 新校舎の基本的な考え方

同一敷地内に小学校普通教室を建設し、特別教室を小中兼用とする施設を計画する。施設利用の効率化を図るとともに、将来の児童・生徒数減少に対応できる柔軟性を持たせることを目指す。また、地域住民が利用できる施設機能を持たせることで、多世代交流や地域活性化にも貢献する可能性がある。

【資料 9】 新校舎建設にかかる考え方 事業方式

設計と建設を一括して進める**DB 方式（Design-Build 方式）**を採用する。民間事業者のノウハウを設計段階から活用することでコスト削減と工期短縮を実現し、令和 15 年度の開校を確実にする見通しである。

【資料 10】 新校舎建設にかかる考え方 スケジュール

スケジュールは、法的手続き・用地買収と並行して基本構想・基本計画を進め、設計・施工へと移行し、令和 15 年 4 月の新校舎開校を最終目標とする。

【傍聴について】

第 1 回は事務局が傍聴者に資料を配布するが、第 2 回以降は配布を行わない。傍聴希望者は、ホームページに事前掲載する資料を各自ダウンロードして持参することとする。

また、第 2 回以降は委員間のグループ討議時間を非公開とし、討議結果の総括・整理の時間から傍聴を再開する方針とする。

→異議なしと認められた。

【資料 11】 第 2 回以降の学校建設検討委員会スケジュール・内容（予定）

第 2 回のみ詳細に説明。

校舎の建設方式について、小中学校を同じ校舎内に設置するか、別棟としてそれぞれ建設するか、また、小中学校で兼用できる特別教室について、どの教科ならどういった理由で兼用できるのか、またはできないのかを重点的に検討していきたいと考えている。

その他、必要諸室や機能構成案、ゾーニングの考え方、地域開放を想定した機能の整理な

どを議題として考えているが、協議状況によっては内容の追加等が生じる場合がある。

【資料１２－１】 校舎のあり方 小中学校を１つの校舎に集約するか、別棟に分けるか
事務局素案として、小学校と中学校を１つの校舎に集約して設置する方針を提示した。

主なメリットとして、事業費・維持管理コストの削減、小規模校の実態に即した合理的な整備、将来的な小中一貫校への移行が容易、小中教職員の連携促進、教育の連続性確保、管理・セキュリティの一元化、敷地の有効活用がある。

一方、対応が必要な事項として、生活空間の混在や時間割の違い、発達段階の違い、保護者来校の利便性、管理・セキュリティなどが考えられる。

【資料１２－１】 校舎のあり方 プールの新設について

事務局素案として新設は行わず、既存プールに日よけ屋根の設置等の改修を行う方針を提示した。

背景として、夏季気温上昇による授業実施困難ケースの増加、中学校でのプール授業廃止（ライフセービング授業への転換）、新設・屋内化に伴う高額なコスト等が挙げられる。

ただし、南知多町は海に囲まれた地域であり泳力習得の必要性は高いことから、既存プールの改修により熱中症リスク対応と水泳授業継続を両立させる方針が必要と考えられる。

【資料１２－２】 小中学校で兼用できる特別教室の検討について

各特別教室の兼用・個別設置に関する事務局案は以下のとおりである。

図工室・美術室・技術室	図工室は小学校専用、美術・技術室は中学校専用として別々に整備。美術・技術室は室内ゾーニングで対応。
家庭科室（調理・被服）	小中合わせて１室で兼用。移動間仕切壁・換気設備で対応。設備共通性が高く兼用支障が最も少ない。
理科室	使用頻度が高く時間割編成の柔軟性が必要なため、小学校用・中学校用それぞれ１室ずつ計２室体制。
音楽室	主要設備が小中共通で体格差への対応も可能なため、１室で兼用
図書室・地域交流スペース	小中兼用により蔵書を一元管理。地域住民が校舎内部を通過せずに利用できる動線を確保した上で地域開放も視野に入れる。
職員室・保健室・会議室・多目的室	基本機能が共通のため兼用。職員室共用により教職員の自然な情報共有を促進。教材室は小学校２室・中学校１室を設置。
校長室	人事・苦情対応等、高い機密性を要するため小中それぞれ１室設置

なお、これらの資料は議論を円滑にするための事務局素案であり、決定したものではない。今後議論を深め、より良い学校を作っていきたい。

6 質疑応答・意見交換

委員	・今回の小中学校建設は単純に学校を作るというだけではなく、観光客など、様々な人が新しい校舎を見て、こんな校舎で子どもを育てたいと思うなど、南知多町の人口増に繋がるような、より活性化していくような事業にしていきたいと考えている。 ・子供を産んで育てるような世代が転入してくるような、そういった校舎を作ってほしい。 ・幼少期の自然体験が重要であり、南知多町はまさにこの環境がある。
委員長	・建設的なご意見だったと思う。 ・学校建設が地域活性化に繋がるという非常に理想的な考え方ではあるが、行政としては現実的に少子高齢化にどれだけのことができるかというのが根本的な問題であると思う。 ・この委員会では、子どもたちが減少していくなか、どれだけの学校ができるのか、現実的な部分に取り組んでいきたい。
委員	・次回以降検討されていくと思うが、この先の子供の数を見ながら学級数を出しているなか、特別支援学級がない。いまは様々な種別があり、今後さらに増えていくと思われるので、これを踏まえたレイアウトが必要。
委員	・専門的な教育部分の話は分からない委員もいる。事務局でうまく段取りして進めていってほしい。

7 次回以降の日程、視察の案内について（資料１３、１４）

【資料１３】

- ・次回以降の日程は次のとおり決定した。

第２回： ７月２７日（月）午前１０時から

第３回： ９月３０日（水）午前１０時から

第４回： １１月３０日（月）午前１０時から

第５回： ２月２２日（月）午前１０時から

【資料１４】

- ・先進地視察（飛島村 飛島学園、瀬戸市 にじの丘学園）について説明し、委員の参加者を確認した。

8 閉会